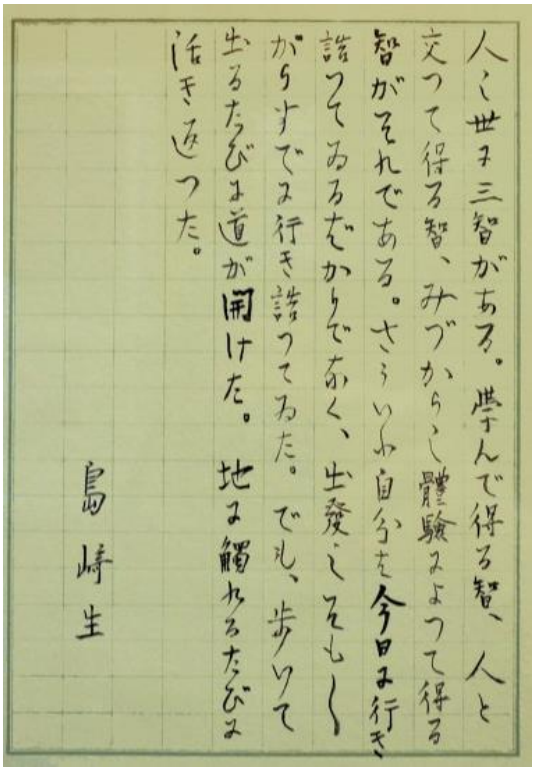
「三智」　（11月9日）


人と世には三智がある。学んで得る智、人と
交つて得る智、みづからの體驗によつて得る
智がそれである。さういふ自分は今日に行き
詰つてゐるばかりでなく、出發のそもそも
からすでに行き詰つてゐた。でも、歩いて
出るたびに道が開けた。地に觸れるたびに
活き返つた。
島崎生

島崎藤村の言葉に「人の世には三智がある。学んで得る智、人と交わって得る智、自らの体験によって得る智がそれである」というのがあります。「さういふ自分は今日に行き詰まってゐるばかりでなく，出発のそもそもからすでに行き詰まっていた。でも，歩いて出るたびに道が開けた。地に触れるたびに活き返った。」と続きます。

この言葉は、現在の学校教育にもピッタリ当てはまるもので、何度も紹介してきた新学習指導要領の「主体的で対話的で深い学び」という言葉にも通じます。

対話的な学びのベースには、まずしっかりとした基本が無ければなりません。そのためにはまず、自ら求めて学ぶ勉強こそが大切だと思います。また、学校は、たくさんの人とかかわりあって学び合う場所です。コロナ禍のなかで私たちは、この２年間、教室でみんなと学ぶことの大切さをあらためて強く感じています。アクティブラーニングで最も学習が定着すると言われるものは、「実際に体験すること。」だと言われます。

島崎藤村は、明治から昭和を生きた作家として有名ですが、学ぶということについて、すでに大切なことを教えてくれていたということです。

わたし達は、「三智」の実現のために、授業改善を重ねていきたいと思います。